

(2) 民間の取組

商工会議所青年部やNPO法人循環型社会創造ネットワーク（通称「CROSS」）が産業観光の振興に取り組んでいる。

八戸せんべい汁研究所は「八戸せんべい汁」の全国への普及に努めている。

地域間交流研究会「はちのへ農援隊」は、地域の農業者、市民、学生らが協働で地域の農業を元気にしようと発足した農業を応援するボランティア団体。農繁期における農作

業支援や農家レストランの開設、農業ブランドの構築等に取り組むほか、「里山の駅」という直売所を開設し、農作物の販売も行っている。

このほか、ACTY（アクティ）、はちのへ女性まちづくり塾生の会、海の八戸NPOなど多くの団体が様々なまちづくりの活動を行っている。

（以上、青森県・各市町村・各観光協会のホームページ、観光パンフレット、青森県人名辞典を参考とした。）

<コラム> 人口減少のゆくえ

歴史人口学の研究者である鬼頭宏氏によると、日本列島の人口は、増加と停滞、あるときには減少を何度か繰り返しながら、大きな波を描くように変化してきたという。人口増加には、弥生時代から10世紀以降にかけてみられる稲作農耕の普及による波と、19世紀から始まる工業化に支えられた波がみられる。一方、人口の停滞は、文明システムの成熟化に伴う現象ともいえ、縄文時代後半、平安時代、江戸時代後半がそうであったように、それぞれの文明システムが完成の域に達して、生産や人口の飛躍的な量的発展が困難になった時代に起きているというのだ。

また、人口変動は、可能となるエネルギー供給量に関係が深いともいわれており、我々人類の存続は、究極的には地球規模の見えざる手によってコントロールされている感もある。このような視点から、長い歴史が残してきた人口の軌跡を眺めてみると、現在起きている人口減少が、過去から連なる1つの人口サイクルの終期を示しているようにも思ってしまうのだが、ちょっと考えすぎだろうか。

